

21世紀のライフスタイルを考える 第2回「住宅」の講演を終えて

世田谷区 松田隆弘

【学習内容】

21世紀を迎えて、新構法の発表とか、安全性を高める以外の新制度の摘要など取り分け新技術に取り組むつもりはない。

それより急激に変化した昭和40年以降、今までの経験、住宅の移り変わりを振り返り正確に判断し、反省をし、今顧客に対し何を考えなければいけないかを通し、顧客自身が自分の住いをしっかり考え、明確に目的を持つことによって「あなたのための手づくりの家」を実現するというのを忘れないで欲しい。

「21世紀！」という標題は全国何処でも話題にしています。しかし、何処でも根源・原因・過程、の追及を中途半端に終わらせているためテレビ討論などは欲求不満が残るばかりである。

私たちの「21世紀～」はそうではなく、なぜこのような結果になったか原因・根源を究明する会でありたい。

例：

- (旗印) (原因・根源の追及)
- 政治 歴史上の政治家の研究をする事によって、女性問題やこそ泥的金銭感覚でトップを下り、厚かましい恥をかかなくてすむように。
- 教育 教育とは共に育む(共育)ということを見直すこと。子ども時代に遊び心の経験が少なく、ものごとに感動を覚えない時代を送った先生に教育を任せることが出来ますか。
- 住専 金貸屋と大蔵省(国)との癒着。金貸屋の不条理、ルールの不徹底、欲の皮の張り合いに負けた貸し手、借り手はどちらも倒産するのがルールでそれを国民が負担し当事者だけのうのうとしているのはなぜか。
- 国保 崩壊、赤字の原因は化学製薬(効果なしと薬学会で発表)を高く売りつけ、多量に飲みきれないほど、老人に負担をかける。
- 健保 (薬害あって一利なし) 医薬分業は癒着をますます増大する国の薬屋保護政策。
- 住/公 公団は国のために何をやってくれたか、天都/整 下り職員に聴いてもらったら一目瞭然、悪いというより何もやってないことに気づくはず。

このように例をあげれば切りがなく、今までは旗を追いかけ群がるだけで、一時的に盛り上がり、すっと消えてしまう。マスコミ、評論家諸氏も視聴率や受けを狙いうわべだけの調査で一向に解決しないで結論を出せない。このような事にいつもフラストレーションを抱えっぱなしの私は「住まい」というあらゆる問題を含むものを通し、根源について、自分自身で考えたら解決が近いことを「あなたのための手づくりの家」でお話ししたつもりです。

●住宅は誰のため、何のため？

(1)住宅はあなたとあなたの大切な家族が安全に安らぎつつろぎ、明日へのスタートのためにある。

(2)住宅はあなた自身の力(予算と目的)で作るのです。そうすればローン地獄などと簡単に言わせないですむ。目的を持つなど、当然のことで常に頭にいれておかないと儲け主義の情報の氾濫に目的を失ってしまう。

●日本の住宅はなぜ高いか

国土が狭く山岳地帯が多いため宅地有効面積が少ない。競争力をいいことに儲け主義の開発業社が増大する。

国の土地政策が業者の利益を増大させ、会社の存在によって国に税金が入る仕組みになっている。土地が上がったときに静観するゆとりがあったらバブルなどとおかしな言葉は流行らなかつた。言葉(特に横文字言葉)に躍らされるまたぞろ日本人。

●人件費は高いか？ そうとはいえない。

住宅メーカーから中間業者をいくつも通って職人さんの手に渡る金額は決して高いとはいえない。それを現場を知らない学識経験、知識階級ともてはやされる諸氏が「日本の建設業は人件費が高い」と言う。間違ったことを言っても国民は納得してしまう。階級に弱い国民性の為だろうか。

●無駄な経費を節減する

住宅展示場の建築費維持費は誰が払うのか。毎年定価を上げるために作り替えるカタログ代は誰が払うのか。都心の一等地にかまえるショールームの家賃は誰が払うのか。テレビ、雑誌、新聞の広告宣伝費は誰が払うのか。

建設費は複雑なコスト管理複雑な流通経路を明らかにしないであなたのところに届くまで、ピンハネ・リベート30%~40%もある。

●材工分離の目的

ゼネコン汚職の根源である見積もり(これからは内訳書)の方法。材工共の項目の中にどんぶり勘定の名残りで、リベート社会癒着の温床が多い。癒着を分離することにより、確実に安く良いものを確保(定価の45%~60%で購入)それを大切に大事に使う。職人は創意工夫により自らの技術を磨き、職人文化の再来を期します。

■最後に

現在の技術者を大切にしない風潮を打破し日本の文化資本(職能意識を持った熟練工)を守る運動をこれからも続けてゆきます。もしそれができなければ日本の建設業は危ない、ひいては日本の国家は危ないということです。